

様式第2号（第9条関係）

会 議 録

会議の名称	令和7年度第1回ふじみ野市環境審議会			
開催日時	令和8年1月27日(火) 開会時刻 午前 9時00分 閉会時刻 午前 11時30分			
開催場所	ふじみ野市役所 本庁舎5階 A大会議室			
出席した者の氏名	役職名	氏 名	役職名	氏 名
	会 長	堀 内 一 男	委 員	石 井 翠
	副会長	中 山 智 晴	委 員	工 藤 和 也
	委 員	寄 藤 信 明	委 員	関 口 園 美
	委 員	渡 辺 千 恵 子	市民活動 推進部長	吉 村 敏 世
	委 員	原 田 喜 久 男	事務局 (環境課長)	坂 本 心 太 郎
	委 員	近 藤 広 巳	事務局 (環境係長)	西 村 祐 次 郎
	委 員	野 崎 聡 美	事務局 (廃棄物対策係長)	齋 藤 伸 悟
	委 員	林 利 英	事務局 (環境係主事)	高 橋 良 輔
	委 員	能 登 原 笑 美 子	事務局 (環境係主事)	梶 原 奏
	委 員	和 田 淑 子	事務局 (廃棄物対策係主事)	青 木 洸 弥
	委 員	小 林 光 春	事務局 (環境係主事)	安 田 ほ の 香
	委 員	三 好 み ち 子		
会議の議題	1 ふじみ野市の環境行政 令和7年度版 環境年次報告書 について 2 ゼロカーボンシティの実現に向けた環境施策について			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	1人			
会議の内容	別紙のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	市民活動推進部 環境課			
議事の確定	確定年月日	令和8年3月16日		
	記名押印 又は署名	会 長 堀 内 一 男		

別 紙

発言者	発言の要旨
事務局	<p>1 ふじみ野市環境審議会委員委嘱式</p> <p>(1) 開式 ◇傍聴人が1名である旨報告</p> <p>(2) 委嘱状交付</p> <p>(3) 市長あいさつ</p> <p>(4) 閉会</p>
事務局	<p>2 令和7年度第1回ふじみ野市環境審議会</p> <p>(1) 開会 ◇委員16名のうち15名が出席し会議成立・報告</p>
各委員 事務局	<p>(2) 委員及び事務局紹介 ◇各委員及び事務局職員等あいさつ</p>
事務局 (仮議長)	<p>(3) 会長・副会長選出 ◇吉村市民活動推進部長が仮議長として進行 ◇会長・副会長の選出について説明 会長・副会長の選任は、委員の互選によって定める。 ▶ 第2期ふじみ野市環境基本計画・後期行動計画 p121</p> <p>ここで委員の皆様におはかりする。 委員の皆様の中で、会長・副会長を受けていただける方はいるか。自薦・他薦・意見等含め、挙手願う。</p>
小林委員	<p>会長について、これまで自治組織連合会から選出しており、以前より委員の経験がある「堀内委員」を推薦したい。また副会長は、以前より副会長を務めている「中山委員」を推薦したい。</p>
事務局 (仮議長)	<p>小林委員より、会長に「堀内委員」、副会長に「中山委員」をとの意見があったが、いかがか。他に意見等ない場合は、拍手をもって承認願う。</p>

発言者	発言の要旨
堀内会長	<p>◇会長・副会長決定 会長：堀内 一男（ふじみ野市自治組織連合会） 副会長：中山 智晴（文京学院大学）</p> <p>◇会長・副会長就任あいさつ</p> <p>(4) 議事 ア 「ふじみ野市の環境行政 令和7年度版環境年次報告書」 議事アについて、事務局より説明願う。</p>
事務局	<p>◇令和7年度版環境年次報告書の概要説明 (主な報告内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1章 1-2(9) 公共施設への太陽光発電導入可能調査 令和7年度版より新たに掲載している旨報告。 ・第6章 6-7(4) 自転車及び家具等のリサイクル事業 令和6年度実績を掲載していない旨報告。
堀内会長	<p>ただいまの事務局からの説明について、質疑等あるか。</p>
和田委員	<p>他市における道路陥没事故を受け、下水道老朽化対策等についての報告は掲載しているか。</p>
事務局	<p>部門が異なるため、本報告書には掲載していない。</p>
寄藤委員	<p>ふじみ野市における温室効果ガス排出量実績について、目標に対する達成進捗状況が遅れていると感じる。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおりであり、「議事イ ゼロカーボンシティの実現に向けた環境施策について」で詳しく説明する。</p>
和田委員	<p>河川等水質調査の地点別調査結果のうち、砂川堀・織部橋における生物化学的酸素要求量（BOD）について、環境基準値を超過しているようだが、対策は。</p>

発言者	発言の要旨
事務局	砂川堀は雨水幹線であるため、環境基準値との比較はあくまでも参考である。また、砂川堀・織部橋周辺は日照時間が長く、藻が発生しやすいことから、BOD が高く示されるが、直ちに対応が必要ではないことを、調査機関との間で認識している。
和田委員	炭を投入する等の対策は検討しているか。
事務局	現段階では検討していない。ひとつの意見として賜る。
和田委員	ふるさとのみどりの景観地（県指定）について、指定されている場所は都市開発が進んでいるように感じられる。指定面積は確保されているのか。
事務局	令和 7 年 3 月 31 日時点で確保されていることを確認している。実際に緑が残されていることも把握している。
原田委員	砂川堀・織部橋における BOD が環境基準値を超過していることについて、織部橋周辺は公共下水道未整備であり、その影響もあると考えるが。
事務局	公共下水道の普及は順次進めているところであり、上下水道課と連携し、普及に取り組んでいきたい。
和田委員	所沢市ではマイボトル専用の無料給水スポットが設置されている。ふじみ野市においても採用してもらえないか。
事務局	ひとつの意見として賜る。今後、環境基本計画の策定を進める中で、マイボトルの推進等一つひとつの案が、施策として位置付けることが好ましいかを含め意見を取りまとめていく。
林委員	紙資料の扱い方について、ごみ排出量及び温室効果ガス排出量削減の観点から、デジタル化を進めるべきだと考える。費用面・業務面のコスト削減にも繋がる。

発言者	発言の要旨
堀内会長	<p>(4) 議事 イ 「ゼロカーボンシティの実現に向けた環境施策について」 議事イについて、事務局より説明願う。</p>
事務局	<p>ふじみ野市がゼロカーボンシティを実現するために、市が今後すすめていきたいと考える3つの取組みについて、委員の皆様から意見をいただきたい。</p> <p>◇1 ふじみ野市の二酸化炭素排出量 現状と目標 説明 (主な説明内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふじみ野市における項目別CO₂排出割合 ガソリン 0.1%、都市ガス 6%、電気 23%、廃プラスチック焼却 68% <p>◇2 すすめたい取組みの費用対効果 比較表 説明</p> <p>◇3-1 項目別CO₂排出状況と取組み(ガソリン) 説明 (主な説明内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所庁用車の内訳(全78台中環境配慮車41台) ガソリン車 37台、EV車 17台、ハイブリット車 24台 ・EV車導入によるメリット・デメリット <p>市役所へのEV車導入のすすめ方について、現在の導入台数から減らすことはせず、導入できる環境・条件が整っている場合には積極的に導入を検討することとし、今後もEV車の導入を継続していきたいと考える。</p>
堀内会長	<p>市役所へのEV車導入の進め方について、意見等あるか。</p>
林委員	<p>「ふじみ野市の庁用車使用におけるCO₂排出量」グラフについて、この値は、走行におけるCO₂排出量のみの値であり、EV車製造時のCO₂排出量の値は含まれていないという認識でよいか。</p>
事務局	<p>認識のとおり、ガソリンの使用量から算出している値である。</p>
野崎委員	<p>EV車自体の導入に係る追加費用はかからないとのことだが、EV車充電スタンドの設置に係る費用は。</p>
事務局	<p>市役所公用車を充電するための充電スタンドは既に整備されており、充分設置がされている(追加費用はかからない)。</p>

発言者	発言の要旨
事務局	<p>なお、市民向けEV充電スタンドに関しては、補足資料より説明する。</p> <p>◇補足資料 EV充電スタンド 説明 (主な説明内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふじみ野市内EV充電スポット数 市設置1か所、民間設置10か所
寄藤委員	<p>市民向けEV充電スタンド設置に係る費用は。</p>
事務局	<p>設置方法や設置場所によって異なる。現在、企業から無料で設置ができるといった提案も受けているが、条件等を比較・検討する必要がある。</p>
寄藤委員	<p>集客のため、スーパーマーケット等民間企業においてEV充電スポットの設置が増えると考えられる。市としてのEV充電スポット設置方針を提示し、市内のスーパーマーケット等民間企業へ設置を働きかけるのはどうか。</p>
事務局	<p>貴重な意見として賜る。今後、環境基本計画を策定する中で検討していきたい。</p>
原田委員	<p>普通充電と急速充電では、どれほど充電時間が異なるのか。</p>
事務局	<p>普通充電はフル充電まで半日かかるものもある。急速充電の中でも、超高速充電は10分程でフル充電できるものもあるが、車に負荷がかかる。</p> <p>公共施設にどの種類の充電スタンドを設置するかは、今後の検討課題になると認識している。公共施設としての充電スポットの需給バランスやコストバランス等とあわせ、民間施設における充電スタンド設置方針を提示するのかなど、今後皆様と研究していきたい。</p>
林委員	<p>充電可能な駐車スペースが限定される・占有されるという問題は世界的にあり、今後新しい技術や概念が登場することが予想される。市としては、当面の間はコストをかけずにすすめるべきであると考えている。</p>

発言者	発言の要旨
事務局	<p>現在提案を受けている企業では、充電スタンドの設置は無料であるが、撤去費用は市が負担することとなっており、貴重な税金を使用することとなるため慎重に検討したい。</p>
事務局	<p>◇3-2 項目別CO₂排出状況と取組み（都市ガス） 説明 ◇3-3 項目別CO₂排出状況と取組み（電気） 説明 （主な説明内容） ・太陽光発電導入可能調査結果 ◇3-4 武州さすてな電気ビジネス 説明 （主な説明内容）</p>
事務局	<p>・武州さすてな電気ビジネス概要 CO₂を排出しない電気、安価で提供可能 ・公共施設への導入について（市はC案を提案） A案：121施設（コストメリットが出る全121施設） B案：150施設（導入可能な全150施設） C案：20施設（コストメリットが高い上位20施設）</p> <p>「武州さすてな電気ビジネス」をはじめとする電気使用によるCO₂排出量削減に関する取組みについて、意見等あるか。</p>
林委員	<p>項目別CO₂排出量として示されている値の算出方法について、ガソリン及び都市ガスの項目は、市役所での使用によって排出されるCO₂量が示されている。一方、電気の項目は、市役所での使用によるものではなく、発電によって排出されるCO₂が示されている。</p> <p>ガソリン項目についてはEV車製造時のCO₂排出量も鑑みる等、供給元・使用時の総排出量で統一すべきと考える。</p>
事務局	<p>貴重な意見として賜る。</p>
寄藤委員	<p>武州さすてな電気ビジネスの導入について、A案（全施設に導入）がよいと考えるが。</p>
事務局	<p>導入により、コスト面がマイナスになる施設もあるため、まずはコストメリットの出る上位20施設での導入を検討したい。</p>

発言者	発言の要旨
事務局	<p>◇4 みんなでできる取組み ごみの減量 説明 (主な説明内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃プラスチック焼却によるCO₂排出量：総排出量のうち約70% ・ごみの少ない市1位 <p>◇5 取組によって削減されるCO₂まとめ 説明</p>
堀内会長	全体を通して意見等あるか。
野崎委員	<p>CO₂排出量の多い廃プラスチック焼却の削減を進めるべきである。EV車導入等の取組みは効果が限定的である。</p> <p>ごみ減量の取組みについて、プラスチックごみを減らす取組みは行っているか。</p>
事務局	<p>市民へごみ分別の周知徹底をするとともに、ワンウェイプラスチック使用削減をすすめるため、環境課で返礼品として作成したマイボトルの配布やペットボトル使用の削減を行っている。今後も新たな取組みを検討していく。</p>
野崎委員	<p>自社でモノマテリアル化を進めているが、回収システムが整備されていないため意味がない。圧縮プラスチックをもやすごみと分けるシステムの検討はしているか。</p>
事務局	<p>リサイクルについて、コストの都合上、容器包装リサイクル法に基づく指定法人にリサイクルを依頼しており、依頼先を変更することは難しい。家庭から出るもやすごみの中にプラスチック類が混入しないよう、分別徹底を啓蒙することが現実的にできることであると考えている。</p>
野崎委員	資料に示す「廃プラスチック量」の算出方法は。
事務局	◇廃プラスチック量の算出方法について説明
寄藤委員	<p>会議資料をはじめとする紙の使用量を減らす等の具体案を、市民にもはたらきかける必要がある。</p>

発言者	発言の要旨
事務局	ふじみ野市内事業者には、食品リサイクル法に基づくリサイクルに取り組んでいただきたいが、コストの問題もある。分別の意識も含め強化は必要だが、どこまでできるかは今後の課題とする。
寄藤委員	ふじみ野市内事業所等へ目標を共有すべきであると考えている。
林委員	ごみ排出量や分別割合が変わらなくても、焼却施設を高い能力がある施設に変えた場合、CO ₂ 排出量は減るのか。減る場合、最適な時期に最適な施設へ変える等、計画されているか。
事務局	市民の皆様にごみ分別を徹底していただいたことで、焼却施設のコストダウンを図ることができた。オーバーホールを実施する際に、コストバランスを考え、焼却施設を時代とごみの質に合った部品に変える必要があると認識している。一方、環境センターは自家発電した電気を使用することでCO ₂ 排出量を抑えながら、廃棄物焼却ができる施設であり、近隣自治体の中では新しい施設となっている。
和田委員	スーパーマーケット等でプラスチックを使用しない販売はできないか。
事務局	市内事業所へのはらたきかけ等については、次期環境基本計画策定の際に改めて議論しすすめていきたい。
堀内会長	<p>(4) 議事 ウ その他 議事ウについて、事務局より連絡事項等共有願う。</p>
事務局	◇連絡事項・あいさつ
堀内会長 中山副会長	<p>(5) 閉会 ◇閉会あいさつ</p>
以上	